

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791100027		
法人名	富士工業株式会社		
事業所名	グループホームつつじ 2 階		
所在地	福島県田村市大越町上大越字古内館野40-5		
自己評価作成日	平成24年9月20日	評価結果市町村受理日	平成25年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

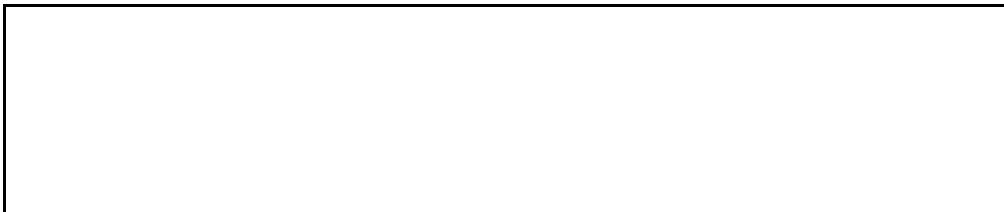
1、ホームの理念に基づき、1階と同様に恵まれた環境と人情あふれる地域の中で、日常生活においても自立支援とその人らしさを尊重し、明るく元気にお過ごしいただいている。特に2階の入居者は、陽気で明るく、穏やかな方たちが集い、食事の時なども常に笑い声が聞こえ、利用者やスタッフの会話が飛び交うなど、家族的な雰囲気で楽しい生活空間になっている。
 2、3・11の影響で避難の利用者が4名のうち3名が2階に集中し、家や家族と離れざるを得なかった悲しさ、辛さを乗り越えて、今は共に励まし支え合ってスタッフと新しい家族のような関係ができています。さまざまな思いを抱えながらも、皆さん地域の人々やスタッフの温かい関わり、人情に触れ、応えるかのように元気な笑顔や笑いに変えて生活されている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年11月26日		



V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に管理者、スタッフともに理念を確認し、会議の中でも共有し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材や衣料、日用品の買い物は地域の商店街を活用している。地域のボランティアに踊りやフラダンス、夏休みやホームの行事の際は中学校のボランティアや職場体験、こども園の児童と交流の機会を設けている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望の家族等が電話で空き状況の確認時や訪問時に、介護者の悩みや対応の仕方について聞かれることがあり、共に支え合う関係づくりや成功事例をお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	家族が避難や遠方に嫁ぎ参加不能、また、クレイマー、非協力的な家族が多く、出席率不良。会議の中では、普段の状況、ヒヤリハットの報告、改善課題について意見交換し、サービス向上に反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的にホームの利用状況の報告を行い、市の担当者と協議の上、生保の入所者や避難している利用者を受け入れ、相談・支援に協力をいただき、関係構築に努めている。また困難事例の相談もしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除のマニュアルを作成し、スタッフ全員がその行為を正しく理解、拘束しないケアに取り組み、徘徊者には30分毎の所在確認チェック、付き添い歩き、声掛け、見守りを徹底するなど実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について資料を基にスタッフ会議や勉強会の中で学び、常にホーム内でのいじめや虐待について細心の注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について資料を取り寄せ、書棚に保管。以前に勉強会で話したこともあるが、現在対象者は存在せず、機会があれば活用できるように支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の際は、わかりやすい言葉で丁寧に説明するように心掛け、不安や疑問点についてもその都度説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見や要望がホームの運営に反映するように、カウンターにアンケートを設置、家族や外部の意見を受け付けている。それらをスタッフ会議や運営推進会議、家族便り等で運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から、申し送りやミーティング時に率直な意見、提案を求めユニット会議、スタッフ会議時に話し合えるように時間を設け、ホームの運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段から何かあれば管理者・主任に相談・報告を求め、週末の訪問等により、スタッフと直接話をしたり意見を求めるなど把握し、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、常にスタッフ一人ひとりの個性やモチベーションを尊重、スタッフ同士の信頼関係の構築、心身の健康管理と協調性の大切さを指導。笑顔で元気に働く環境づくりと内部で勉強会を奨励。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度初期に、グループホーム連絡協議会に入会したことにより、今後、研修会の参加、情報交換等活動を通してサービスの質の向上を図り努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	定期受診時の車中や日常生活の中でも、声掛け、話し掛けを多くして、コミュニケーションの機会を持ち、気兼ねなく相談できる関係づくりに努めている。不安を解消しながら、信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話の応対時等、機会を捉えて家族の要望や希望、本人に関する情報を共有し、丁寧に対応する等関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実調時の聴き取りと日常生活の様子観察の中で、本人家族の話を聴きながら、プランに反映、地域の保健、医療と連携し、近隣ボランティアの協力を得るなど、ご本人のQOL向上に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、掃き掃除や料理の下ごしらえなど簡単な作業を一緒に行ったり、利用者同士も一緒に入浴するなど、脱衣所では衣服のボタンや靴下をはかせるなど支え合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	春のお花見や夏祭りの当日、近くに住む家族に対しては、移動誘導の協力や見守り等協力を依頼し、遠方の家族には時々面会や電話等の協力依頼をして共に支える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望時に馴染みの人に電話連絡をしたり、面会の依頼をお願いしている。また馴染みのお店や近隣等知り合いに会いに行くなど関係が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で食事のテーブル拭きや玄関の庭掃きなど共用スペースの作業を分担して行ない、歩行時ふらつく利用者の手をつないで歩くなど、支え合い利用者同士、仲良く生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、家族には時々電話のやり取りや季節を通してはがきを頂いたり出している。家族の希望や要請があれば、本人家族の相談支援に対応する姿勢は持ちたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	うまく伝えることができない入居者の思いは価値観や生活歴、趣味嗜好等、普段の生活の中で把握し、尊重している。編み物やスケッチをしたり、のんびり自由に過ごす等、本人が望む暮らしの支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常的に利用者の声に耳を傾け、寄り添い、望む暮らしのあり方や生活歴、価値観を共有する事で、大切にしている事や思い、意向を把握し日々のサービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、元気に過ごせるように、声掛け、ふれあっている。顔つき、声、爪の色、活気などその日の体調の変化があれば、受診や家族に連絡、申し送り時に周知。日常生活の中で心身の安定に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回、変化があればその都度、担当や主任とモニタリング、アセスメントを行い、満足度や問題の抽出に努め、改善に向けて本人、家族に説明をしながら、現状に即した介護計画作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の他に、バイタル、健康の記録、食事、排泄、入浴のチェック等を個別に行い入居者の変化を見逃さないようにしている。状態により、定期的またはその都度、計画の見直しをして関わっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の心身の状態、家族関係、家族の健康不良などを考慮し、本来グループホームで対応することが難しい状態の入居者を受け入れ、可能限りニーズに応えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の住人や地域の役人、消防団が時々、来所され農作物のお裾分けやボランティア活動として歌や踊りを披露され、一緒に楽しい時間を過ごす事ができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り、本人、家族が希望するかかりつけを大切に受診し、結果も家族に報告、スタッフにも周知している。24時間のオンコール体制、緊急時の往診も可能、適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者について、変化があれば、医療連携の看護師に365日24時間オンコール体制にあり、連絡相談、指示をもらって対応している。緊急時は往診、看護師の訪問も可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も面会に行くなど、経過や状態を家族や医療連携室に報告、相談をしている。日頃から、協力医院を通して総合病院や専門病院の紹介、検査入院等、連携し関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、家族には終末期に向けた希望、要望をアンケートで確認している。また、終末期には、家族に対し、医師から十分な説明とホームより、看取りケアの説明を行い、同意書に署名捺印を頂いたが、入院し最期は病院で迎えたため看取りの経験はない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や緊急時の対応、応急手当について、ほぼ毎回、市の消防本署にて行われる講習会に2名ずつ参加し、スタッフ会議の中で他のスタッフに周知、実際に訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回、夜間の火災や水害等自然災害等を想定して避難誘導の訓練を実施、年に2回は近隣の住人や地域の協力を得ながら、大掛かりな訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格や価値観を尊重し人生における大先輩である入居者一人ひとりを大切に、介護姿勢や目線、言葉づかいも慣れ合いにならないように丁寧語を基本にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望時は、日程を変更し散歩や買い物等外出している。また、入浴も希望時に、対応できるようにしており、おやつ時も甘いものと辛いものなど、日常生活の中で自己決定、選択できる機会を設けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者がその日の気分や体調、天気によって買物やドライブを希望した時は外出できるように調整している。室内でも、手芸やカラオケ等好きなように過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室や理容室に毛染めやパーマ、カットなど、定期的に男性も女性も付添い出かけている。お化粧品したり、髪飾りをする等、車椅子でもスカートはいたり個々におしゃれを楽しみながら生活している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	煮物の下ごしらえやカレーの野菜の皮むきをしたり、お料理の味見をしていただきながらできる事は手伝っていただいている。大きなテーブルでスタッフと一緒に和やかな雰囲気を楽しみながら食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やおやつ、入浴後等の機会に以外にも、希望時はお茶やコーヒーなど準備して、1日に1500～2000CCを目安に、その人の等状態に合わせて、トロミを付けたり、好みの飲料を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後は、各居室に戻って、自分で歯磨きをしたり、スタッフが磨き残しがいないようにしている。夜間は入れ歯洗浄剤につけて預かり、入れ歯のない人もお茶や洗口液で口腔内の食べかすを流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別のトイレにチェックシートを活用し、一人ひとりの排泄管理をしている。尿便意が曖昧な人は定時に声掛け誘導し失禁を防いでいる。リハビリパンツや夜間のオムツ使用の方も日中はトイレ誘導を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中でも食事面で、野菜や水分をたくさん摂る事に加え、適度な運動やゲームに参加して体を動かしている。ヨーグルトやプルーン、寒天を個別に摂取して頂く等、工夫をしている。頑固な便秘には、下剤にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は大体決まっているが、午前、午後入浴に拘らず、希望があれば、夕食前入浴、夜間入浴など可能な限り、入居者の希望を受け入れて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼休みは1時間していただくが、しない人もいます。消灯時間は決まっているが、就寝時間はまちまちで、眠気がさすまでテレビを見たりしてくつろいでおり、その人の生活サイクルやペースに応じて過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診は、スタッフ全員が関わるようにしており、病気の状態や薬についても、処方時に薬剤師より説明を受けて理解できている。効能、副作用についても記録や日誌を通して、全員に周知し様子観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や本人から、折に触れ生活歴、人生観、趣味や特技、嗜好について話を聞いて、日常の生活プランに反映。できる事を好きなようにして、役割意識ややりがいを感じて、その人らしく生活して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人、家族の外出、外泊希望があれば、可能な限り、協力して一緒に出掛けている。入居者の姉妹と一緒に温泉1泊など、状況によりスタッフが同行、付添い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常、貴重品現金は、事務所に管理しているがすべて自分で管理している方、小遣いだけ少額を管理している等、その能力に応じて管理しており、買物や受診時の支払いを介助により、窓口で自分で行う方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時や訴え時は介助により電話をしたり、家族からの電話の時など対応している。家族からの手紙も時々来るが返事はなかなか出せていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は明るく広々としており、落ち着いた雰囲気照明や空調関係にも常に気づかっている。壁面やホールにも季節の花やくつろぐことができるソファを置き、気の合う利用者同士ゆっくり過ごして頂くようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームは個室であり、独りになる事もでき、自由に共用のスペースの方に移動も可能である。派手な装飾等はなく、ソファやコタツでゆっくり、気の合う者同士くつろいだり、コミュニケーションが図れるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	居室はすべて個室で、内側から施錠もできる。トイレ、エアコン、クローゼットが付いており、フロアは規定より、少し広がっている。自宅から馴染みの家具や調度品、テレビなど持ち込みも可能で、その人らしい居室、環境整備がなされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室エアコン完備、リモコンで操作できるが湿度や室温をスタッフが調整管理している。居室は引き戸でウォシュレット式水洗トイレを設置、陰部洗浄はスタッフがを行い、水洗や電気のスイッチは自分でやっている。		